

[報告] 関東大震災と御用邸の被害-宮内公文書館史料から-

三重県立総合医療センター* 木下 恭子

Damages of Royal Family Villas by The Great Kanto Earthquake

— From the Documents of The Imperial Household Archives —

Kyoko KINOSHITA

Mie Prefectural General Medical Center, 5450-132 Ohaza-Hinaga, Yokkaichi-city, Mie-ken, 510-8561 Japan

There are lots of important photographs about the damages of The Great Kanto Earthquake in the Imperial Household Archives. The photos show the damaged Royal Family Villas escaped from a fire. From the photos, we recognize the actual damages of the Royal Family Villas and how big the earthquake was.

Keywords: Keywords: 1923 Kanto Earthquake, Royal Family Villas, damage, The Imperial Household Archives.

§ 1. はじめに

大正 12(1923)年 9 月 1 日に発生した関東地震において、震源に近い神奈川県では、ほとんどの地域で震度 6 以上を観測した。揺れだけでなく、火災により焼失した建築物も多く、それらの被害写真はあまり残されていない。しかしながら、火災の難を逃れた宮内省管轄と思われる建築物等の被害写真が、宮内公文書館に多く残されている。

本報告では、宮内公文書館に残る『震災写真帳』(識別番号 46880~46883)から、神奈川県内の建築物の写真に注目し、小田原御用邸を取り上げる。小田原御用邸については、『震災写真帳』以外にも、様々な史料が残されており、比較・検討することで、地震被害の一端を明らかにしたい。

§ 2. 御用邸の分布

明治から大正にかけて、天皇や皇族の避暑・避寒地として、神奈川県や静岡県、栃木県などに御用邸が配置された。『震災写真帳』には、小田原御用邸、宮ノ下御用邸、箱根離宮、熱海御用邸、葉山御用邸、鎌倉御用邸における建築物の被害写真が多数残されている。

2.1 小田原御用邸の沿革

小田原御用邸は、避暑・避寒のため神奈川県小田原市に設けられた御用邸で、旧小田原城の二ノ丸跡に新設された。小田原城跡地は、明治 2(1869)年の

版籍奉還の翌年に天守及び藩邸を除く各建築物が売却された。明治 32(1899)年に御用邸建築が決まると、宮内省による用地の交換や買収を経て、明治 33(1900)年 1 月、御殿等の建築が始まった。竣工は、同年 11 月である。

明治 40(1907)年頃までは、主として明治天皇皇女常宮・周宮(かねのみや)両内親王の避寒地として、それ以後は皇太子(のちの大正天皇)の避暑・避寒地として用いられたほか、他の皇族にも使用された。

2.2 小田原御用邸の概要

小田原御用邸の各建築物については、宮内公文書館蔵の『小田原御用邸沿革誌』(識別番号 12914)に記録が残されており、詳細を知ることができる。また、同館蔵『相州小田原御用邸総地図二百分一/明治 33 年』(識別番号 38964)に敷地の図面が記されており、建築物の正確な位置が確認できる。

建築物はすべて、二ノ丸跡に平屋で建築された。御殿のほか 18 棟の附属建築物があり、そのうち 17 棟は木造、1 棟が土蔵造である。御殿は、元赤坂離宮内の旧紀伊徳川氏の邸宅の一部などを移築し、謁見所や御座所、侍医局に使用された。御膳所や食堂、属官や御附の詰所などは新築され、旧小田原城の遺構としては、土蔵造の東南櫓 1 棟のみであった。

2.3 小田原御用邸の被害

『震災写真帳』には、家屋 6 枚、石垣・塀 6 枚、門 4

* 〒510-8561 三重県四日市市大字日永 5450-132
電子メール: kyoko-kinoshita@mie-gmc.jp

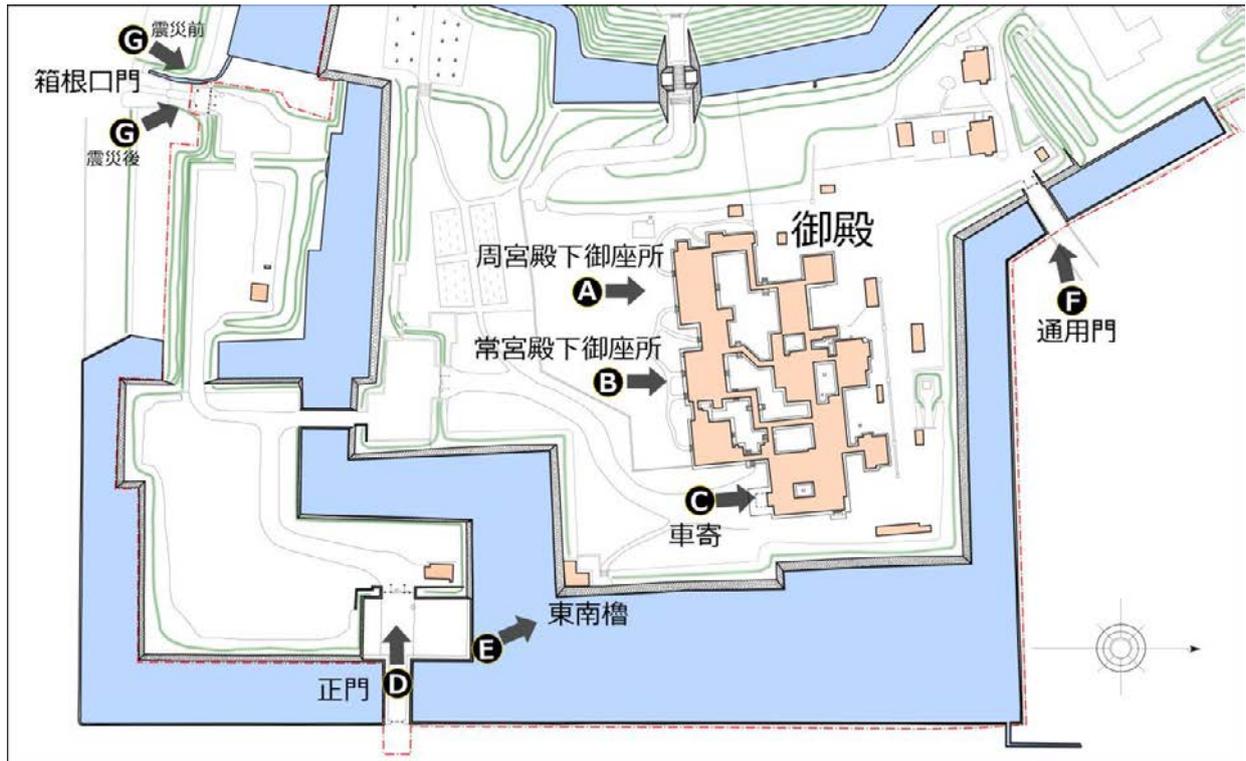


図1 小田原御用邸配置図
 (宮内公文書館所蔵『相州小田原御用邸総地図二百分一／明治33年』よりトレースし抜粋・加筆)
 Fig.1 Layout drawing of Odawara Royal Family Villa

枚、道路1枚、地面1枚の計18枚の写真が残されている。図1は、『相州小田原御用邸総地図二百分一／明治33年』をトレースしたものである。撮影場所をアルファベット、撮影方向を矢印で表記した。以降で該場所の震災前後の写真を示した。なお、写真は宮内公文書館所蔵であるが、写真-7,9については小田原市・櫻木達夫氏所蔵のものである。

御殿のうち、周宮殿下御座所(図1A、写真1,2)は1階が潰れ、屋根が落ちている一方、常宮殿下御座所(図1B、写真3,4)は屋根瓦が落下し、壁面が剥がれ

ている箇所はあるが、倒壊は免れている。車寄は、周宮殿下御座所同様に1階が潰れており(図1C、写真5,6)、御殿の中でも場所により倒壊を免れていることが確認できる。

また、正門(図1D、写真7,8)は2本の柱が残っているが、扉や塀が全壊し、石垣も崩れている。写真中央には地割れのようなものもみられる。さらに、東南櫓(図1E、写真9,10)の石垣は原形を留めないほど崩れており、通用門(図1F、写真11,12)や箱根口門(図1G、写真13,14)でも扉が倒壊し、石垣も甚大な被害を受けている。



写真1 周宮殿下御座所(震災前)
 Photo 1 Kanenomiya's room(before the earthquake)



写真2 周宮殿下御座所(震災後)
 Photo 2 Kanenomiya's room(after the earthquake)



写真 3 常宮殿下御座所(震災前)

Photo 3 Tsunenomiya's room(before the earthquake)



写真 4 常宮殿下御座所(震災後)

Photo 4 Tsunenomiya's room(after the earthquake)



写真 5 車寄(震災前)

Photo 5 The porch(before the earthquake)



写真 6 車寄(震災後)

Photo 6 The porch(after the earthquake)



写真 7 正門(震災前)

Photo 7 The main gate(before the earthquake)



写真 8 正門(震災後)

Photo 8 The main gate(after the earthquake)

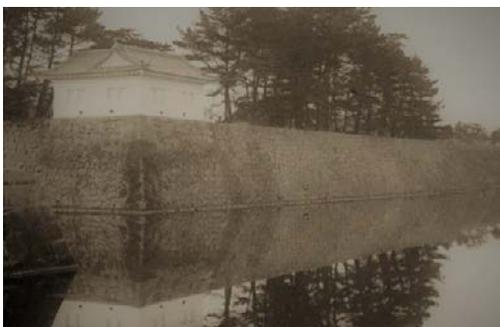


写真 9 東南櫓(震災前)

Photo 9 Southeast Oar(before the earthquake)



写真 10 東南櫓(震災後)

Photo 10 Southeast Oar(after the earthquake)



写真 11 通用門(震災前)
Photo 11 Side gate(before the earthquake)



写真 12 通用門(震災後)
Photo 12 Side gate(after the earthquake)



写真 13 箱根口門(震災前)
Photo 13 Hakone-guchi gate(before the earthquake)



写真 14 箱根口門(震災後)
Photo 14 Hakone-guchi gate(after the earthquake)

震災後の大正 13(1924)年に、敷地は帝室林野局の管理となり、東京支局小田原出張所の庁舎として使用されたほか、一部は昭和 2(1927)年に学校用地として小田原町に払い下げ・交換された。宮内公文書館所蔵『離宮及び御用邸の整理に就て』(識別番号 95101,作成時期不明)には、小田原御用邸の廃止を進言する旨の記載もあり、御用邸は再建されなかったようである。昭和 5(1930)年には御用邸廃止となり、小田原御用邸はその役目を終えた。

§3. おわりに

本報告では、大正 12(1923)年の関東大震災による小田原御用邸の被害について、宮内公文書館史料や個人が所蔵する写真から、地震被害の一端を明らかにできたと考える。なお『震災写真帳』には、宮ノ下御用邸や熱海御用邸、葉山御用邸についても多くの写真が残されており、今後も調査を続け、様々な史料との比較・検討を行いたい。

謝辞

本報告にあたっては、宮内公文書館書陵部職員の方々に大変お世話になった。また、小田原市の櫻木達夫氏には、関東地震前の小田原市内を撮影した貴重な写真を提供いただいた。ここに記し、感謝申し上げます。

対象地震:1923 年関東地震

史料

- 『震災写真帳』(識別番号 46880～46883).宮内公文書館
- 『小田原御用邸沿革誌』(識別番号 12914).宮内公文書館
- 『相州小田原御用邸総地図二百分一／明治 33 年』(識別番号 38964).宮内公文書館
- 『離宮及び御用邸の整理に就て』(識別番号 95101).宮内公文書館